

英語科授業案

教科で育みたい人間像 「世界の人々と心でつながる人」

授業者 松永 有未
Matthew Coughlin

- 1 日時 令和6年11月1日(金) 第1時 10:20~11:10
2 学級 1年D組 (1年D組教室)
3 題材名 Fuchu Expo – An Important Element of Myself –

4 本題材で願う学び

自分の好きなもの、趣味、力を与えてくれるものや大切なものなど、心から魅力的に感じるものについて紹介するために、自分自身をより知り、相手に伝わるような英語の表現方法を追求するなどして、紹介するものの魅力や自分の心の奥にある思いを英語で語り合うことや相手の思いや考えを知ろうとやりとりをすることを通して、人と心でつながるコミュニケーションにおいて大切なことについて考えを深めていく。

(学習指導要領との関連：(3)話すこと [やり取り]アイ (4)話すこと [発表]イ)

5 これまでの学び

英語によるやりとりを通して得られる、言葉を介して人とコミュニケーションをとることのよさを感じてほしいと願い、1年生最初の題材として次の活動を設定した。子どもたちは学校生活を充実させるための仲間づくりをめざして、出会って間もないクラスメイトのことを知るために、My Manual (私のトリセツ) を交換し合い、英語で会話することに挑戦した。子どもたちは、この題材を通して、以下の学びを得たと考えられる。

命英語で話すことの大切さを学んだ。

- ・会話は言葉のキャッチボールだから、一方的に自分がしゃべり続けるのではなく、相手がいったことに対して、質問や反応をしてコミュニケーションをとることが必要だと思った。
- ・コミュニケーションをとる中で話題を深掘りすることが一番大切だと感じた。そうすることで、互いに共感でき、もっと知ることができるようになったと思う。

(題材のふり返しより)

(1) コミュニケーションにおける「思い」と「相手意識」をもつ大切さ

子どもたちはMy Manualを交換しながら英語でやりとりする活動を通して、コミュニケーションに対するとらえ方を変容させていった。はじめは英語で会話をしただけでコミュニケーションができているという満足感があった。しかし、題材の目的に立ち返りながら、経験を積み重ねていくうちに、「自分のことをもっと伝えたい」「相手のことをもっと知りたい」「一方的ではなく双方向的に充実したやりとりができるような工夫をしたい」と考えるようになった。実践を積み重ねたことにより、英語で自分のいいたいことが相手に伝わったり、相手のいいたいことがわかったりして、心が通う瞬間に得られる楽しさやおもしろさ、喜びを実感することができた。

以下は、子どもたちが題材における活動をふり返ったものである。

- ・自分のことを英語でわかりやすく相手に表現すること、英語で相手のことを知ろうと一生懸命

ふり返しからも、コミュニケーションをとる際には、相手意識をもって思いを共有すること、相手の思いを知り、理解しようとしてよく話を聴くこと、質問や反応をすることなどを意識していたことがわかる。

子どもたちのあられから、英語でやりとりすることを意識的に実践することで、子どもたちはコミュニケーションにおける「思い」と「相手意識」をもつことの重要性を感じられたことが見とれる。そして、その両方が折り重なることで、より豊かで両者にとって意味のあるやりとりの実現を可能にすることに気づくことができたといえる。

(2) 粘り強く多様な表現方法を追求する必要性

子どもたちはMy Manualを作成したり、それらを交換しながら英語でやりとりしたりする活動を通して、英語による表現方法と言葉以外の表現方法について考え、試行錯誤しながら自分の思いを表現してきた。

まず、子どもたちは言葉に焦点をあて、英語で自分たちの思いを表現したり、相手にとってわかりやすい表現を模索したりした。その中で、辞書で知り

たい英単語を調べても見つからない経験や調べた言葉を使って表現したのに相手にうまく伝わらない経験から、英語の言語知識を工夫して活用することが必要であることに気づいていった。

例えば、「よろしくね」は日本語特有の表現で、よく“Nice to meet you.”と訳されるが、これは「あなたに会えてよかった」という意味である。この題材で伝えたい「よろしくね」という言葉に込めたい思いは何かと子どもたちに問い返すと、「仲良くしてね。(Let's be good friends.)」「話そうね。(Please talk with me.)」「これから1年間、楽しみだね。(I look forward to this school year.)」「これから一緒に頑張ろう。(Let's try our best together!)」などさまざまなものがあつた。言葉の中にある思いを引きだし、別の言葉で言い換えることで、いいたいことを英語で表現することができるパラフレーズの考え方を学んだ。それによって英語表現の幅に広がりがでてきた。

子どもたちは、パラフレーズを活用してやりとりを重ねる中で、とっさにうまく英文をつくることのできない経験や言葉だけでは十分に思いが伝わらない経験をしたり、もっと楽しく盛り上がる会話をしたいという思いをもったりした。そこから、何とかして相手に思いを伝え、やりとりをより充実させるために、ジェスチャーや表情、声のトーン、話すスピード、実物を見せるなどの非言語的コミュニケーションを用いた工夫のよさを見いだした。

自らの言葉で思いを語るために粘り強く英語表現を追求し、そのうえで言葉と非言語的コミュニケーションを複合的に活用することの必要性を学んだのではないだろうか。

子どもたちは、My Manual を作る過程や英語でやりとりをする場面において、自分自身や相手に思いを巡らせ、人とつながることのおもしろさを実感した。それを原動力に、さらに互いのことを知ろうと意欲的に活動に取り組む姿が見られた。この題材を通して得た学びは、人と人が心でつながるコミュニケーションを実現させる大きな一歩となっていると考えられる。これから、自分や相手のより深部に迫り、伝えたい思いや英語表現にじっくり向き合い、その人にしか伝えられない思いをその人の言葉で表現する題材との出会いが、子どもたちのさらなる成長につながることを願っている。

6 題材観

(1) 本題材の価値

本題材では Fuchu Expo という活動を軸に授業を展開していく。Fuchu Expo とは、子どもたちが心から魅力的に感じるもの、つまり自分自身を形成する大切な要素“My Element”をテーマとした展

覧会である。展覧会本番に向け、子どもたちは My Element を見つけるために、自己分析や英語表現の追求、本番を想定した準備をする。このような活動を通して見られる本題材の価値は以下の通りである。

① My Element 一人に思いを伝える一

My Element のよさや自分の思いを人に伝える活動には、以下の三つの魅力がある。

ア 心から魅力的に感じるものに思いを巡らせること

好きなもの、趣味、力を与えてくれるもの、大切なものなど、心から魅力的に感じるものは自分を形成するポジティブな一要素である。人は「好きなもの」と向き合うと、自然と楽しい気持ちになったり、夢中になったりと幸福感や満足感といった肯定的な感情を抱くだろう。もののよさや思いを適切な言葉で言語化することは難しいが、夢中になれる魅力を感じるからこそ話したいという思いが生まれるだろう。本題材で心から魅力的に感じるもの、つまり My Element と向き合うことは、他のどの話題よりも、自然といいたい、伝えたいという思いをわかあがらせる魅力がある。

イ 伝えたい思いを引き出すために自分をもっと知ること

人に伝えたいと思える My Element を見つけるためには、自分のことをもっと知る必要がある。しかし、中学生のこの時期は、「自分がどんな人間で、何者であるのか」と思い悩む時期にある。そのため、自分について深く掘り下げて理解し、心の奥にある思いに迫ることは大変価値のあることである。一方で、この思いを自分自身との対話だけで見いだすことは難しい。より客観的な視点からまだ見ぬ自分に気づかせてくれる他者の存在が重要となる。他者とのかかわりの中で、互いに助け合いながら、自分の新たな一面を見つけていこう。自分を知ることにより、心から魅力的に感じるものが明らかになっていくことで、そのよさを誰かと共有したい、伝えたいというコミュニケーションの原動力となる思いが生まれるだろう。

ウ 自分の思いを伝えるための英語表現の追求

My Element のもつ魅力を英語で表現するためには、より具体的な説明や特徴を示す表現が必要になる。中学生は英語で感想や印象について述べるとき、“exciting”や“interesting”などを使用することが多い。しかし、「なぜ」“exciting”や“interesting”であるのかを英語で答えることは困難なことであろう。例えば、I like baseball because it's exciting.で

は野球の何に心を引かれ、何をおもしろいと思っているのかを言語化できていない。それがもつよさや魅力的に感じる理由などと向き合い、言語化することで、言葉に込められた思いがより生き生きと鮮明に映し出されることだろう。また、好きなものなどについて英語で伝えるとき、特有の言葉や魅力を味わう感覚的なものについて英語で表現したくなるだろう。それらを他者に共有するためには、言葉のもつ意味やニュアンスをより明確にし、どのようにすれば相手に自分の意図していることや思いが伝わるのかをよく考え、工夫を凝らして英語で表現する必要がある。このように自分の思いを伝えるために英語表現を追求する姿は、伝えたい思いを原動力に相手意識をもって試行錯誤するという、コミュニケーションと真摯に向き合う人間的な姿である。

②Expo —ものを通して人と人がつながる—

Expo（展覧会）の魅力は、鑑賞者が展示物やタイトルから、その背景にいる出展者に思いを巡らせることができることである。本題材における Expo は一般的な展覧会とは異なり、リアルタイムに対面で出展者と鑑賞者がやりとりをして、つながることができる場である。このような展覧会を出会い、表現する場として設定することにより、以下の二つの価値が生まれる。

ア 新たな出会いによって広がるかかわり

展覧会で、人はものを通して他者の思いにふれることができる。誰しもが展示物やタイトルを見たとき、これらに込められた思いを感じとろうとするだろう。展示物やタイトルに心を動かされ、その背景にいる人に思いを馳せることで生まれる新たな出会いがあるはずである。英語の授業では、英語表現の幅を広げることや互いの考えを伝えたり、理解したりすることを目的に英語でやりとりしていく活動をする。そのとき、子どもたちは決められた方法で話す相手を変えたり、自由に話したい相手を選んだりすることが多い。そのため、やりとりをする意欲がわかなくなったり、話す相手が固定化されてしまったりすることがある。だからこそ、本題材では、ものを通して人の思いにふれることで生まれる出会いをきっかけに、普段あまり話さない相手と話したり、気の知れた相手の知らない一面に気づいたりするようなかかわりの広がりを見せるだろう。

イ 自然と生まれるやりとりを重ねていくこと

相手の思いを知りたい、話してみたいという思いや自分の思いを伝えたい、わかってもらいたいという思いをもつことで、自然とやりとりが生まれる。展覧会の場合は、それが実現される場である。やりとりの中で、鑑賞者は相手の思いやいいたいことを理

解するために、話を聴くだけでなく、相手の思いを理解し、自分の言葉で相手への賛同を示したり、自分なりの解釈を伝えたり、質問したりすることなどを大切にしていこう。このようなかかわりは、相手の伝えようとする意欲をさらにかきたて、改めて自分自身を見つめ直すことや英語表現の追求などにつながるだろう。出展者は、自分のいいたいことを伝えるだけでなく、相手が知りたいことは何かを理解し、それに応えようとするだろう。これによりやりとりがより活発なものになっていき、互いをわかり合うことにつながると考えられる。互いに話し手であり聞き手である意識を大切に、やりとりを重ねていくことは、人と人の心が通うコミュニケーションをしていくために非常に重要なことである。ものを通じた出会いをきっかけに、互いの思いに迫り、心からつながるかかわりが生まれたら素敵である。

(2) 本題材で願う子どもの姿

本題材で願う子どもの姿は大きく二つある。

一つめは「自分の好きなものの魅力や自分の思いを伝える英語表現を相手意識をもって追求する姿」である。子どもたちは、自分の好きなものや大切なものなどが何かを感覚的にとらえているが、何によさを感じ、それをどのように思っているのかを具体的に言語化したり、意識したりしていることは少ない。だからこそ、改めて自分自身や心から魅力的に感じるものと向き合ってもらいたい。そうすることで、「自分の好きなもののよさを語りたい」「人と共有し、理解してもらいたい」という思いがわきあがってくるのではないだろうか。それらを英語で伝えることは容易なことではないが、自分の好きなものと向き合うことを原動力に、どのようにして語ろうか思いを巡らせるだろう。その中で、さまざまな既習表現を組み合わせたり、英語表現を調べて比較したりしながら、自分の思いが伝わるように特徴やよさを言いあらわしていく。そこで選択した英語表現を吟味しながらじっくりと向き合うことを願っている。さらに、相手とやりとりをする中で、自分の意図が伝わっているのか相手に確認しながら言葉を選んだり、理解してもらえるように言い換え表現を探したり、具体例を示したりする姿も見られるかもしれない。相手意識をもつことを大切に、納得できるまで自分の思いを伝える英語表現を追求していく姿を期待したい。

二つめは「相手の新たな一面を知ろうとする中で、相手の思いに寄り添ってかかわる姿」である。互いの好きなものについて語り合う中で、聞き手の立場で相手とかかわる場面がある。

子どもたちは話を聴いて疑問に思ったことや理解できなかったことを聞き返したり、相手の考えに

対する自分の考えを伝えたりしながら、相手の思いをくみ取りそれを表す英語表現と一緒に追求していくだろう。その過程で、相手の思いに寄り添い、伝えたいことや考えていることをわかろうとするやりとりを重ねてほしい。やりとりを重ねる中で、クラスメイトのもつ多様な価値観や感性、英語表現にふれることができるだろう。それにより、問い返しの内容や英語表現の幅が広がり、さらに相手の思いを引きだし、理解しようと寄り添ってかかわる姿を期待したい。

本題材を通して、相手意識をもって英語表現を追求することで自分のいいたいことを豊かに表現できることを実感してほしい。また、子どもたちが英語でやりとりをし、相手とわかり合えたことへの達成感や喜びを感じてほしい。さらに、異なる価値観を知る中で自分自身の考えが深まることに対する充実感を得てほしい。これらの気づきや学びを通して、人と心を通わせるコミュニケーションのあり方やそれを実現させるために大切なことなどについて子どもたちそれぞれが考えを深めてほしい。

7 題材構想 (全 21 時間)

- (1) What is “Fuchu Expo”? (1 時間)
- (2) What do you want to do in Fuchu Expo? みんなでどのような Fuchu Expo にしたいか考えよう。(1 時間)
- (3) Let’s know more about ourselves! What is “My Element”? (5 時間)
- (4) How can we talk about My Element more attractively? (7 時間)
- (5) Fuchu Expo 2024 (The Performance Day) (5 時間本時はその 1)
- (6) What did you learn through Fuchu Expo? (2 時間)

Fuchu Expo とは、子どもたちが心から魅力的に感じるもの、つまり My Element を紹介する展覧会である。子どもたちが出展者や鑑賞者となり、My Element について英語でやりとりをする。Fuchu Expo 開催に向け、自己分析をし、自分の思いを表すための適切な英語表現の検討や当日を想定したシミュレーションなどに取り組む。

(1) What is “Fuchu Expo”? (1 時間)

第 1 時で、子どもたちは学年職員の用意した展示物や英語によるビデオメッセージから My Element に出会い、そこに込められた思いを感じながら Fuchu Expo のイメージを膨らめていく。Expo の意味やイメージを子どもたちと共有した後、子どもたちは実際に展示物を見て、その背景にいる人に思いを巡らせていくだろう。「My Element がその人にとってどのようなものであるか」「展示物に対してどのような思いをもっているのか」など想像することを期待したい。そのうえで英語によるビデオメッセージを見ることにより、言葉を通して人の思いや意外な一面にふれることで、よりその人のことを知りたくなるだろう。また、普段英語を話さない身近な人が、英語を使って一生懸命子どもたちに思いを届けようとする姿は子どもたちの印象に残るはずである。そして子どもたちに、「これから先生たちの Expo を超える、1 年生の Fuchu Expo を作ってみよう」と授業者から提案する。第 1 時を通して、子どもたちは以下のような思いを抱くだろう。

- ・自分の好きなものを紹介している先生がいた。私も、自分の好きなものをクラスの人にも知ってもらえるような紹介ができるように頑張りたい。
 - ・先生たちの My Element が意外で、知らない一面を知ることができた。ビデオを見て、タイトルの意味がよくわかった。クラスメイトはどのような My Element を選ぶのか知りたくなってきた。
 - ・Fuchu Expo を自分たちでつくっていくことがおもしろそうだ。先生たちの紹介を見て、My Element のイメージがわいた。好きなものを選んでる人もいれば大事なものを選んでる人もいて、自分は何にしていこうかこれから考えていきたい。
 - ・まだ、はっきりと Fuchu Expo のイメージがもてていない。英語の紹介は理解できたが、自分が英語で話すことができるかが心配だ。
- など

(2) What do you want to do in Fuchu Expo? みんなでどのような Fuchu Expo にしたいか考えよう。(1 時間)

第 2 時では、Fuchu Expo の具体的なイメージをもち、Fuchu Expo で大切にしたいことを子どもたちと共有するために、「どのような Fuchu Expo にしていきたいか」となげかける。子どもたちは、漠然とした「楽しさ」や「おもしろさ」、場の雰囲気など表面的な部分に着目していくだろう。授業者は、

子どもたちが **Fuchu Expo** を徐々に自分ごととしてとらえられるように、より内面的な部分に視点を向けられるような問い返しをする。共有を通して、子どもたちは、**Fuchu Expo** へのイメージをさらに膨らませ、自分たちが何をめざし、何を大切に活動していくかを明確にしていくだろう。共有を終えた子どもたちは、**Fuchu Expo** について以下のような思いを抱くだろう。

- ・ただ好きなことを紹介するのではなく、心から魅力的に感じるものは何かをよく考えて、深い内容にしていきたいと思った。
- ・**Fuchu Expo** を通して、クラスの人たちのことをもっと知り、自分が見せていない一面を知ってもらうことで、お互いを理解して、より仲を深めるきっかけにしていきたい。
- ・今日の話し合いを通して、互いにいいことが話せたり、相手のいいことがわかったりして会話の弾む楽しい **Expo** にしていきたいと思った。
- ・ALT の先生との会話では、相手をもっと知るための質問ができなかったので、今回はクラスメイトの **My Element** のよさをよく理解するために、積極的に質問して、自分から話せるように頑張りたい。
- ・**My Element** がどのようなものであるかはわかってきた。正直、自分のことをあまりよくわかっていないので **My Element** を見つけることが大変そうだ。

など

(3) Let's know more about ourselves! What is "My Element"? (5 時間)

第3時から、**My Element** を見つけ出すためにマインドマップを使った自己分析や英語によるやりとりをしていく。まず始めに、自分のことをもっと知るために、マインドマップを活用し、自分は何が好きなのか、大切なものは何かなどをじっくり考えていきたい。子どもたちは自分のことを掘り下げていく中で、以下のような思いをもつだろう。

- ・好きなことだからいいことがたくさん見つかった。日本語であれば、話が止まらなくなると思う。
- ・私は趣味について話したい。趣味に打ち込んでいる時間がとても充実していて、みんなにもよさを知ってもらいたい。
- ・いくつか **My Element** の候補がある。この中からどれを選べばいいのか迷っている。
- ・思いつく **My Element** が1つある。でも、理由

を説明することがとても難しい。

など

この活動を通して、自分が語れる話題を探り、マインドマップの枝の広がりを見ながら **My Element** として何を選ぶかを考えることができるだろう。

次に、クラスメイトと英語でやりとりをするを通して、**My Element** になりえるものを集めていく。相手のことをより知るために、**My Manual** の授業で気づいた **what** や **why** を使った質問や相手からさらに情報を引き出すための英語表現を思い出し、この活動に生かしていくだろう。

子どもたちは、英語によるやりとりと共有を繰り返しながら、**My Element** について深掘りしていくだろう。この一連の活動の中で、試行錯誤して、互いの内側にあるものを引きだし、知ろうとする姿が見られることを期待している。子どもたちは、やりとりをする過程で、以下のような思いをもつだろう。

- ・「なぜ」と相手にたくさん聞いていくことで、相手が考えるきっかけになり、深掘りすることができると思う。自分も「なぜ」と聞かれるとそれに答えるために自分について改めて考えようとすることで **My Element** になりそうなものが1つ増えた。
- ・楽しい雰囲気だと話すと、会話が弾んだ。質問することに加えて、話しやすい雰囲気を作ることは、相手の思いをひき出すために必要だと思う。
- ・最初は、英語で質問することが活動の目的になってしまった。そこで、相手の趣味についてもっと教えてほしいと伝えたらたくさん話してくれたので、それが相手の **My Element** なのかもしれないと思った。
- ・英語のいい方がわからないときはペアで相談しながら進められた。ペアが変わったときに、その表現を使って相手のことを深掘りしていくことができた。

など

子どもたちは英語で相手のことを掘り下げていくことに難しさを感じるだろう。ここで使った表現や疑問が残った点については記録を残し、後に参考にしたり、再検討したりすることができるようにしておきたい。英語によるやりとりで **My Element** を探る活動を終えて、以下のようなことをふり返るだろう。

- ・話していく中で、自分が話せそうなことが見つかった。

- ・クラスの人と話して、好きな歌手を **My Element** として紹介したいと思った。他のことよりも話せることが多く、そのことを話しているととても楽しかったので、**My Element** の中でも魅力的だと思っているのだろうと感じた。
- ・サッカーのことを話したいと思っていたが、友達に質問されて思っていたよりも答えられなかったから、もっと調べたり、本当にサッカーが **My Element** かを考えたりしたい。
- ・いいたいことや思いはあるが、うまく言葉にすることができなかった。言葉にすることは難しいが、どのようにしたら言葉にあらわせるかじっくり考えていきたい。

など

このようなさまざまな思いをもちながら、子どもたちは **My Element** を決定していくだろう。

授業者は決定した **My Element** を確認し、本番に向けた検討を行うために3～5人グループをつくる。以後、**Fuchu Expo** 当日まではこのグループのメンバーと内容や英語表現などを追求していく。

(4) How can we talk about My Element more attractively? (7時間)

第8時から、**My Element** について紹介する内容や英語表現の方法を個人やグループで追求していく。また、展示物のタイトルを考えたり、本番を想定したシミュレーションをグループで行ったりもしてほしい。

Fuchu Expo では、子どもたちが心から人とつながろうとする姿を大切にしたいと考えている。そのため、紹介原稿を作成せず、必要な単語やフレーズ、想定質問やそれに対応するときを使いそうな表現などを書いたメモのみを作成することとしたい。授業者は原稿を作らないことへの不安をもつ子どもたちの思いを受け止め、十分な準備時間の確保をする。その中で、子どもたちはグループでの協力やALT、授業者からのフィードバックなど、さまざまな方法に支えられながら英語で表現することに挑戦していくだろう。

子どもたちは、より相手にわかりやすく伝えることをめざして表現を磨いていくだろう。それぞれの活動が進んできたところで、授業者は“**How can we tell about My Element more attractively with our thoughts and feelings?**” (**My Element** に思いをのせてより魅力的に伝えるためにはどのようにしたらよいのか) と問いかける。子どもたちは、選択した英語表現が本当に伝えたいことをあらわしているのか、ただの情報の羅列になっていないか、自分の思いに寄り添ったものか、相手意識をもったものかなどの視点をもって、自分たちの英語表現を

振り返るだろう。さらに、子どもたちの考え方に広がりが出るように、子どもたちのアイデアを全体で共有する場を設定していく。

子どもたちは表現や伝え方を磨くために、シミュレーションを重ね、紹介の仕方や鑑賞者になげかける言葉など、聞き手を引きつける話し方の工夫にも思考を巡らせていくだろう。

グループのメンバーとの話し合いを通して、自分が本当に伝えたいことを英語で表すために単語の選択や文章構成を追求し、聞きとりやすさや伝わりやすさなども考慮した、豊かな英語表現を追求していく姿を願っている。

- ・はじめは、猫の情報を紹介するだけの内容だったが、どのようなところがかわいいのか、自分が心のよりどころにしているということがわかるエピソードを加えることで、より自分の気持ちが伝わる紹介を考えることができた。また、聞いてくれる人への質問を考えたので、聞いている人とのやりとりも楽しめる **Fuchu Expo** にしたい。
- ・「ご当地限定」と英語でいいたくて、ローカルやオンリーという言葉を見つけ出した。調べると **local-limited** だったが、聞きなじみがなく難しいと思ったので、**It has many kinds of local designs. Look at this. You can buy it only in Shizuoka.** と言うことにした。簡単な英単語でも組み合わせや使い方次第で、うまく自分のいいたいことを伝えられると思った。
- ・友達とシミュレーションをする中で、友達の英語表現や話し方の工夫を見つけ、自分も真似したいと思った。また、相手に聞きたい共通した質問が見つかった。本番では積極的に英語で質問ややりとりをしていきたい。

など

(5) Fuchu Expo 2024 (The Performance Day) (5時間 本時はその1)

子どもたちが **My Element** をクラスメイトと共有する。これまでの準備を生かし、**My Element** について語り合うことに挑戦する。実際に活動することを通して、失敗と改善を繰り返し、試行錯誤しながら英語によるやりとりを生みだしてほしい。例えば、鑑賞者の反応を見ながら話すこと、自分の伝えたいことを相手がわかるまで言い換えをしたり具体例を使ったりして諦めずに伝えること、“**I think so too.**” など出展者の思いに共感する言葉をかけること、**why** や **what** などを用いて出展者の考えや思いをもっと知ろうと質問すること、伝えたいことがわからなかったり聞きとれなかったりしたとき、“**What is ~?**” “**Please tell me about ~ one more**

time.”など相手のいいたいことを理解するために出展者にかかわることなどが、互いをわかろうとやりとりをしようとする姿として考えられるだろう。目の前の相手とのコミュニケーションを楽しみながら、自分の思いを伝えようしたり、クラスメイトの話の聴いたりして、やりとりを重ねていく中で、互いの新たな一面を発見し、英語表現などの工夫を学びとってほしい。Fuchu Expo を終えた子どもたちは、以下のようにふり返るだろう。

- ・準備した成果を出せた。メモを頼りにその場で英文をつくりながら話せたので、聞いている人の反応を見ながら進めることができた。
 - ・普段話さない人と話すことができた。その人の趣味を知ってはいたが、直接詳しく話を聞いてみて、自分も興味をもつことができた。
 - ・聞いている人が反応や質問をしてくれたから、自分の伝えたいことが相手に伝わっていることがわかり嬉しかった。聞き手は理解していることや思っていることを言葉にすることが大切だと思った。
 - ・友達の My Element の紹介を聞いて、本当に好きだという気持ちがエピソードから伝わってきた。難しい単語もあったが、知っている単語を使って詳しく説明していたことは、とてもいい工夫だと思った。英語で表現するとき、簡単に言い換えることだけが正解ではないことがわかった。
 - ・最初はぎこちない会話だったが、やりとりを繰り返していくうちに、質問の仕方やかかわり方がわかってきた。少しずつその場で思ったことや知りたいことを聞くことができるようになって、Fuchu Expo を楽しむことができた。
- など

- ・今回は My Element を見つけるところから何度も友達と話したり、アドバイスをし合ったりして、準備をしっかりとすることが印象的だった。これにより、自分自身と向き合うことができ、英語で表現する内容を充実させることができた。何かを語るときには、そのものをよく知り、考えることが大切だと思った。また、自分が相手に質問をする時には、相手の思いを引きだし、理解しようとする気持ちをもつことが必要だと思った。
- ・今回、My Element の魅力を伝えるために、言葉選びを意識して取り組んだ。伝えたいニュアンスがより伝わるように複数の表現を比較、検討した。英語を使って自分のいいたいことを伝えるためには、ただ英訳すればいいわけではなく、自分の思いが伝わるような単語をよく考えて選び、聞いてくれる相手にとってわかりやすいものを選ぶことがとても大切だと思った。
- ・Fuchu Expo を通して、人と直接コミュニケーションをとることのよさを改めて感じた。互いに自分のいいたいことが相手に伝わったり、相手のいいたいことがわかったりすると、その人との心の距離が縮まったように感じるができるからだ。それは、自分の思いを自分の言葉で伝え、その言葉をしっかりと相手に受け止めてもらえていることが、相手の言葉から伝わってきたからだと思う。

今回の経験を通して、人と心でつながる瞬間を実感し、それを実現させるためには何が大切であるか、クラスメイトのどのような姿が素敵であったかなど、人と心でつながるコミュニケーションのあり方や大切にしたいことについて考えを深めていこう。人と心でつながるコミュニケーションにおいて、何を大切だと思うかは人それぞれであるが、自分と相手の思いに寄り添い、その思いを大切にしようとしていることは共通しているだろう。今後、子どもたちそれぞれが学び、考えたことを生かして、人と心でつながろうとする姿を願っている。

(6) What did you learn through Fuchu Expo?

(2時間)

本題材を通した学びをふり返る時間としたい。自分やクラスメイトの取組から、得られたことや今後につなげていきたいことについて一人一人が考えをもってほしい。

参考文献：文部科学省(2017) 『中学校学習指導要領 外国語編』

参考資料：EXPO 2025 大阪・関西万博公式 Web サイト <https://www.expo2025.or.jp/>